

# 「種友明文庫」 整理報告

吉 岡 義 信

## 1. はじめに

「大分大学研究者総覧（1994）」によると、種友明先生は國學院大学文学部文学科国語学専攻を卒業の後、同大学院日本文学研究科国語専修修士課程を終了、同博士課程を単位取得退学されています。昭和44年より大分大学に勤務され平成7年2月に亡くられました。専門分野は国語学、研究課題は国語史、敬語となっています。先生の蔵書約1万冊が本学に寄贈されたのは、平成8年7月17日でした。収集された蔵書にはかなりの愛着を感じられており、生前、「蔵書は分割せず、まとめて扱うように」とご家族に伝えられていたそうでもあります。死後、大分大学に寄贈する話もありましたが、同大学にある蔵書との重複などの理由から、先生の知人であり本学の教員である切石文士先生を通して、本学に寄贈されることになりました。

搬入された蔵書は4階書庫に臨時に格納され、今後の整理方針として、岡田茂図書館事務部長（当時）、切石文士先生、国文学科の森脇茂秀助教授立合のもと、専門書（先生の専門分野およびこれに付随する関連分野）を整理していくことになりました。これは将来蔵書目録を作成した際に、雑多な図書が含まれていると先生の名誉に傷がつくとの配慮からの方針でありました。

## 2. 整理の経過

まず平成9年1月22日付で「種先生寄贈図書について」という文書（別掲）を理事長と国文学科長に提出し承諾を得ました。そして平成9年度より整理を開始、アルバイト学生1名、目録担当者1名による作業で、アルバイト学生は講義の空き時間に作業するため毎日ではなく、しかも目録担当者は新規購入図書の整理の合間に行なうということで、思うようにはかどらなかったのが現状でした。

アルバイト学生は、納入処理、支払い処理、学術情報センターからの書誌データの取り込み、蔵書印の押印作業を行い、目録作業はその担当者が行い、図書ラベルの貼付、タトルテープの挿入等は、他の職員が行いました。

最終的に平成9年度に2,978冊、平成10年度に1,121冊、合計4,099冊の整理が終了しました。これは上述のように専門図書のみであり、漢籍類、雑誌は未整理のままです。整理済みの図書は一時的に4階書庫に配架され、31号館（大学院研究棟）に新図書室が設置されたのに伴い、職員2名が半日、約1週間かけて作業し平成11年5月20日に配架が完了しました。

そして、6月15日ご遺族を招待し開架式を行い、同時に蔵書目録の贈呈を行ないました。これにより一連の作業は一応終了したことになります。

## 3. 蔵書構成

整理された蔵書の構成を日本十進分類法の主類表により分類してみると、次のようになりました。

0（159冊）、1（162冊）、2（227冊）、3（122冊）、4（14冊）、6（7冊）、7（92冊）、8（1,504冊）、9（1,812冊）

このことから8の語学、9の文学が圧倒的に多いのがわかります。これは、先生の専門からすれば

当然の帰結ということになります。次に多い2の歴史では、まとまったものとして「平安遺文」、「改訂史籍集覧」、「続史籍集覧」、「国史大辞典」（吉川弘文館）などがあり、総じて古代史特に「古事記」、「日本書紀」関係が多いようです。1の哲学では「本居宣長全集」、「賀茂真淵全集」、「契沖全集」、ほかには仏教関係が目につきます。0の総記では「折口信夫全集」、「続群書類従」、「日本古典全集」などの全集もの、「国書総目録」、「古典籍総合目録」など書誌、目録類が多く、特に折口信夫については、文学の中にも多く見られるのが特長となっています。3の社会科学では民俗学特に民話・昔話・伝説、民謡関係が多いようです。7の芸術では唱歌、能、狂言、歌舞伎、落語関係が目を引きまします。

また8の語学、9の文学について細分してみると、次のようになります。

80 (102冊)、810 (539冊)、811 (95冊)、812 (21冊)、813 (155冊)、814 (64冊)、815 (338冊)、816 (32冊)、817 (1冊)、818 (111冊)、82 (14冊)、83 (16冊)、85 (1冊)、86 (14冊)、89 (1冊)、90 (5冊)、910 (138冊)、911 (548冊)、912 (55冊)、913 (451冊)、914 (68冊)、915 (130冊)、918 (394冊)、919 (3冊)、92 (16冊)、991 (4冊)

これから見てもわかるように、語学で最も多いのが810（日本語）で、この中でも国語史が大部分を占めています。ついで815の文法・語法、813の辞典、818の方言の順となっています。文学では911の詩歌が最も多く、特に万葉集関係の図書が中心になっています。913の小説・物語では源氏物語関係の図書が最も多く、918の作品集（全集、選集）では古典文学の全集、大系が多く、個人全集では「漱石文学全集」（集英社）と「志賀直哉全集」（岩波書店）の2点のみです。915（日記・紀行・書簡）では平安時代の日記文学関係の図書が大部分を占めています。914（評論・随筆・小品）では枕草子関係の図書が半数近くを占めています。

このように、先生の蔵書は専門の国語学に限らず実に多岐にわたっており、本学の蔵書の空白を埋めるものもかなりあり、日本語・日本文学専攻の院生はもとより、歴史学専攻の院生、一般学生にも大いに利用されています。なお、この文庫は図書室内での閲覧のみとなっており、貸出は行なっておりません。

（よしおか・よしのぶ 別府大学図書館事務参事、非常勤講師）

平成 9 年 1 月 22 日

図書館長 倉田 紘文

## 種先生寄贈図書について

先日、故種先生の蔵書の寄贈を受けました。この資料の整理などは図書館の責任で行いますが、専門的な内容ですので、国文学科との連携を密にし、いろいろとご指導頂きたく、よろしくお願い致します。

現在、ご指導頂きたい問題は下記の「2」通りです。

### 1. 寄贈資料の全容

#### ①資料の数量

まだ未整理ですが、ほぼ以下の通りです。

図書 約6,000冊（うち 900冊は簡略リストあり）

雑誌（未製本） 約4,000冊（うち1,300冊は " ）

和古書 約100冊

テープ 若干

#### ②整理の期間、費用など

整理期間は1～2年を予定しています。

1冊あたり200円程度の費用がかかります。図書館から予算を申請中です。

### 2. お願いする内容

#### ①整理前の選別

図書、雑誌ともに長期保存には不適切なものも若干あります。（例：大分県職員録、文芸春秋などの一般書、文庫本など）

これらは、選別のうえ廃棄したいので、この選別には、国文学科のご判断をお願い致したいと存じます。

#### ②整理の過程での細かい相談

出来れば、国文学科で担当の先生を決めて頂いて、問題発生の都度ご相談したいと存じます。

#### ③整理後の配架の場所

種文庫として、一括して配架する約束になっているので、あらかじめ置場所を決めて、整理後は順次その場所に移したいと思えます。国文学科でなにかご意見がおありでしょうか。

以上

理事長 殿

平成9年1月22日

## 種先生寄贈図書について

図書館長

倉田 紘 文

図書館事務部長

岡田 茂

故種先生の蔵書の今後の整理に関して下記の通り検討、提案致します。

1. 現状 まだ未整理ですが全容はほぼ以下の通りです。

総冊数 約10,000冊 内訳 和古書 約100冊

図書 約6,000冊（1年分の購入図書と同数）

雑誌 約4,000冊（未製本）

テープなど若干

保存状態は良好

図書 900冊、雑誌 1,300冊は簡易リストあり、他はリストなし

2. 整理は下記の計画で行いたいと思います。

1) 登録、分類、目録、蔵書印、タイトルテープなど、通常の図書と同様の整理を行いたい

2) 整理作業の場所と整理方法など

4階書庫内での整理が望ましい（現物を移動しないで済むため）

整理用の端末機を1台設置し、照明などを用意する

作業要員1人とすれば、1～2年の仕事となると思われます。

3) 整理予算

消耗品費（図書館の関連の消耗品費用の約1年分）

雑誌製本代

作業費（学生アルバイト使用）

合計 約¥2,000,000

4) 事前に国文学科と相談して効率の良い整理法を研究したい

例えば、あまり重要でないものは除外して負担を軽くしたい

5) 整理期間は、平成9～10年度内を目標とする

3. 蔵書としての資産評価（寄付）は、通常の寄贈図書と同様、定価又は現物1ページ当たり10円で計上する。年度毎に集計して寄贈扱いとする。

4. 整理後の管理、利用について

整理後は、一ヶ所にまとめて利用に供する約束になっています。

A案) 図書館内の積層書庫に置く

B案) 学内に一部屋を決めてそこにまとめて置く

5. その他

国文学科に協力をお願いしたい（別紙）

整理完了後に目録を作成してご遺族に贈呈する

以上